英語翻訳-参照用のみ  
  
これは、日本国外の読者の便宜のために作成された日本語オリジナル版の非公式な翻訳です。日本語オリジナルとこの翻訳の間に相違がある場合は、日本語オリジナルが優先されます。  
  
法人計算規則第131条に基づく法人監査人等への報告事項の通知  
  
XX 2019  
  
KPMG AZSA LLC

目次  
  
1. 品質管理システム 1  
  
2. トップのトーン 3  
  
(1) 品質とリスク管理のリーダーシップ責任 4  
  
3. 適切なクライアントとの関わり 5  
  
(1) クライアントとエンゲージメントの受け入れと継続 5  
  
(2) 見込みクライアントとエンゲージメント受け入れプロセス 5  
  
(3) 継続プロセス 6  
  
(4) 撤退 6  
  
(5) クライアントポートフォリオ管理 6  
  
4. 明確な基準と堅牢な監査ツール 7  
  
(1) 監査へのアプローチ 7  
  
(2) 独立性、誠実性、倫理性、客観性 9  
  
5. 適切に資格を持った人材の採用、育成、配置 13  
  
(1) 採用 14  
  
(2) 個人の成長 14  
  
(3) インクルージョンとダイバーシティプログラム 14  
  
(4) 品質とコンプライアンス指標を含む評価プロセス 15  
  
(5) パートナーの採用 15  
  
(6) 専門家の配置 15  
  
(7) 私たちの人々から - グローバル・ピープル・サーベイ（GPS） 16  
  
6. 技術的卓越性と品質サービス提供への取り組み 17  
  
(1) ライフタイム・ラーニング戦略 17  
  
(2) IFRSおよび米国GAAPエンゲージメントに対するライセンスおよび必須要件 17  
  
(3) 専門家ネットワークへのアクセス 18  
  
(4) コンサルテーション文化 18  
  
(5) ビジネス理解と業界知識の開発 19  
  
7. 効果的かつ効率的な監査の実施 19  
  
(1) 継続的な指導、監督、レビュー 19  
  
(2) 適時なエンゲージメント品質管理（EQC）レビュアー 20  
  
(3) 報告 20  
  
(4) 洞察力のある、オープンで正直な双方向コミュニケーション 21  
  
(5) 前任監査人と後任監査人間のコミュニケーション 21  
  
(6) クライアントの機密性、情報セキュリティ、データプライバシー 21  
  
(7) リスク関連情報 21  
  
8. 持続的な改善への取り組み 22  
  
(1) 内部監査およびコンプライアンスプログラム 22  
  
(2) 外部からのフィードバックと対話 24

品質管理システム  
  
概要  
  
KPMG AZSAは、KPMGインターナショナルの方針と手順を実施し、金融庁の企業会計審議会、日本政府、日本公認会計士協会（JICPA）およびその他の規制当局が発行する規則および基準、公認会計士法、会社法、金融商品取引法、その他の関連法規、JICPAの監査に関する監査基準および品質管理基準、JICPAの倫理規程および監査に関する実務指針に対処するための追加の方針と手順を採用しています。  
  
堅牢で一貫した品質管理システムは、高品質なサービスを提供する上で不可欠な要件です。したがって、KPMGインターナショナルには、すべてのメンバーファームに適用される品質管理方針があります。これらは、すべてのKPMGスタッフが利用できるKPMGのグローバル品質＆リスク管理マニュアル（グローバルQ＆RMマニュアル）に含まれています。  
  
これらの方針と関連する手順は、メンバーファームが関連する専門基準、規制および法的要件に準拠し、状況に適した報告書を発行するのを支援するために設計されており、メンバーファームの人員が誠実さと客観性を持って仕事を遂行するのを助けます。これらの方針と手順は、国際監査および保証基準審議会（IAASB）が発行した国際品質管理基準1（ISQC 1）および国際倫理基準審議会（IESBA）が発行した専門会計士の倫理規程に基づいています。これらは、法定監査およびその他の保証および関連サービスエンゲージメントを実施するメンバーファームに関連しています。

KPMG AZSAは、KPMGインターナショナルのポリシーと手順を実施することが求められており、また、金融庁やJICPA、その他の関連規制当局が発行する規則や基準、適用される法律や規制要件に対処するために設計された追加のポリシーと手順を採用しています。リスクおよび品質ポリシーの改訂、倫理および独立性ポリシーを含む、品質およびリスク管理アラートに含まれ、メールで通知されます。  
  
KPMG AZSAは、メールアラートで指定された変更を実施することが求められており、これは内部監視を通じて確認されます。  
  
品質管理とリスク管理は、すべてのKPMG AZSAスタッフの責任です。この責任には、日常業務を行う際に、企業のポリシーおよび関連手順を理解し、遵守する必要性が含まれます。品質管理システムは、どこに拠点を置いているかに関係なく、すべてのKPMGスタッフに適用されます。  
  
多くのKPMGの品質管理プロセスは横断的であり、アドバイザリー業務にも同様に適用されますが、このセクションの残りの部分は、品質監査の提供に焦点を当てています。  
  
  
  
監査品質フレームワーク  
  
KPMG AZSAでは、監査品質は正しい意見に達するだけでなく、その意見がどのように達成されるかについても重要です。それは、監査報告書の背後にあるプロセス、思考、および誠実さについてです。品質監査の結果は、関連する専門基準および適用される法律および規制要件に準拠した適切で独立した意見の提供です。  
  
すべての監査専門家が品質監査を提供するために必要な基本的なスキルと行動に集中できるように、KPMGインターナショナルは監査品質フレームワークを開発しました。このフレームワークは、KPMGネットワークが監査品質を駆動すると考えるものを説明するために、KPMG AZSAを含むすべてのKPMGメンバーファームが採用する共通の言語を使用しています。そして、各KPMGメンバーファームのすべての監査専門家が監査品質の提供に貢献する方法を強調しています。  
  
  
  
トップのトーンは、監査品質フレームワークの7つの監査品質ドライバーの中核に位置し、適切な行動がKPMGネットワーク全体に浸透することを確認します。他のすべてのドライバーは、それぞれが他のドライバーを強化することを目的としているため、徳の円を作ります。この報告書の以下のセクションで、7つのドライバーのそれぞれが詳しく説明されています。  
  
  
  
トップのトーン  
  
KPMGインターナショナルおよびKPMGメンバーファームの文化は、強力な価値観および支援ポリシーおよびプロセスに基づいており、これにより、適切な態度と行動がKPMGネットワーク全体に浸透します。  
  
グローバルリーダーシップは、地域およびメンバーファームのリーダーシップと連携して、品質と最高の専門的卓越性への取り組みを確立する重要な役割を果たしています。品質、誠実さ、倫理に基づく文化は、利害関係者や投資家が依存する監査およびその他のサービスを実施する組織にとって不可欠です。  
  
KPMG AZSAでは、相談が奨励され、強みとして認識される文化を推進しています。  
  
トップのトーンは、KPMG AZSAのリーダーシップが品質、倫理、誠実さに対するコミットメントを示し、顧客、利害関係者、および社会全体にそのコミットメントを伝えることを意味します。誠実さは、利害関係者が期待し、依存する重要な特性です。また、KPMGの主要な価値でもあります。「何よりも、誠実に行動する」。誠実さとは、最高の専門基準を常に維持し、適切で良質なアドバイスを提供し、独立性を厳密に維持することを意味します。  
  
KPMGの価値観は、長年にわたって明確に規定されており、KPMG AZSAの業務慣行およびコンプライアンス文化に組み込まれています。  
  
KPMGの価値観は、私たちの文化の基盤であり、トップのトーンを設定します。また、KPMGの監査アプローチの基盤を形成し、私たちがどのように協力して働くかを形作ります。私たちは、KPMGの価値観を明確に伝え、それらを人々のプロセス（入社、業績開発、報酬）に組み込みます。  
  
  
  
KPMGグローバル行動規範  
  
KPMGの誠実さと品質への取り組みは、私たちが物事を行う方法の中心にあるKPMGの価値観に具体化されています。それらは、KPMGの多様で包括的な文化と、適切な個人的および専門的行動への取り組みを定義しています。KPMGの価値観は、何よりも、KPMGの人々が誠実に行動し、最高の専門基準を維持し、適切なアドバイスを提供しながら、独立性を厳密に維持し、法律、規制、および専門基準に準拠することを強調しています。KPMGの価値観は、すべての人々に明確に伝えられ、メンバーファームの人々のプロセス（入社、業績開発、報酬）に組み込まれています。  
  
KPMGの価値観に基づいて、KPMGグローバル行動規範が構築されています。  
  
メンバーファーム、KPMG AZSAを含む、は、最低限、グローバル行動規範を採用することが求められています。  
  
  
  
KPMG AZSA行動規範

KPMG AZSA行動規範は、KPMG AZSAのすべてのパートナーと従業員に対する倫理的行動の期待を示し、KPMGの価値観、KPMGの信念と原則の共有セットを基盤としています。また、KPMG AZSA行動規範は、各パートナーと従業員が、自分の職務機能と責任レベルに適用される法的、専門的、倫理的基準を遵守する個人的責任を強調しています。KPMG AZSA行動規範は、私たちのコミットメントを示し、要約すると、KPMGの人員に以下のことを求める規定を含んでいます。  
  
すべての適用法、規制、専門基準、およびKPMG AZSAの方針を遵守する;  
  
適切なクライアントや第三者と協力する;  
  
品質に重点を置く;  
  
KPMG AZSA内で行われた違法行為や不正行為、クライアントやサプライヤーによる違法行為や不正行為、取引する公務員による違法行為や不正行為を容認しない;  
  
情報を保護する;  
  
公正に競争する;  
  
私たちの人々を卓越した存在にする手助けをする;  
  
責任ある企業市民である;  
  
公の信頼を築く。  
  
  
  
すべてのKPMG AZSAの人員は、以下を行うことが求められます。  
  
グローバル行動規範およびKPMG AZSA行動規範を遵守し、入社時およびその後毎年、行動規範の遵守を確認する;  
  
入社時およびその後毎年、行動規範に関する定期的な研修を受ける。  
  
個人は、自分が不快に感じることやKPMGの価値観と矛盾することを見たときに声を上げることが奨励されています。また、KPMGのすべての人々は、報告する責任があり、違法行為やKPMGの価値観、KPMGの方針、適用法、規制、専門基準に違反する可能性のある活動を報告することが求められています。  
  
私たちは、倫理的および品質問題を報告できる手続きとコミュニケーションチャネルを確立しています。善意で手を挙げて声を上げる個人に対する報復は禁止されています。また、KPMGの内部および外部の関係者からの詐欺リスク（つまり、詐欺による重要な誤りのリスク）に関連する情報は、関連するエンゲージメントパートナーに伝えられ、その監査対応が本社に報告されることになっています。  
  
さらに、KPMGインターナショナルホットラインは、KPMGのパートナー、従業員、クライアント、および他の外部関係者が、KPMGインターナショナル自体、KPMGメンバーファーム、またはKPMGメンバーファームの上級リーダーシップまたは従業員による特定の活動領域に関連する懸念を機密で報告できる仕組みです。KPMG AZSAでは、Global People Survey（GPS）（セクション5.（7）を参照）を通じて、私たちの人々がKPMGの価値観をどの程度実践しているかを定期的に監視しています。  
  
  
  
品質とリスク管理のリーダーシップ責任  
  
KPMG AZSAは、品質、倫理、誠実さへのコミットメントを示し、クライアント、ステークホルダー、社会に品質への焦点を伝えます。リーダーシップは、適切なトーンを設定し、模範となる行動を示すことで重要な役割を果たし、最高水準の専門的卓越性への揺るぎないコミットメントを示し、主要なイニシアチブを支援しています。  
  
リーダーシップチームは、品質、誠実さ、倫理に基づく文化を築くことにコミットしており、その行動（書面およびビデオコミュニケーション、チームへのプレゼンテーション、1対1のディスカッション）を通じて示しています。  
  
以下の個人が、KPMG AZSAで品質とリスク管理のリーダーシップ責任を持っています。  
  
  
  
マネージングパートナー  
  
ISQC1の原則に従って、マネージングパートナーは、KPMG AZSAの品質管理システム、詐欺リスクへの監査対応を含む最終責任を負っています。  
  
  
  
品質担当の執行役員  
  
KPMG AZSAの品質管理システム、リスク管理、コンプライアンスの運用責任は、品質担当の執行役員に委任されており、全体的な専門的リスク管理および品質管理方針の策定とファームのコンプライアンス監視を担当しています。  
  
マネージングパートナーと品質担当の執行役員は、内部会議やニュースレターを通じて、品質管理システムに関する内部方針、監査品質を優先する行動とメッセージを専門家に伝えています。  
  
エンゲージメントパートナーは、関与する各エンゲージメントの品質とリスク管理を担当しています。  
  
  
  
適切なクライアントとの関与  
  
クライアントおよびエンゲージメントの受け入れと継続  
  
監査品質を管理するための鍵は、クライアントの性質と彼らが直面する問題を理解し、特定されたリスクに対する強力な監査対応を構築することです。  
  
私たちは、クライアントが私たちの仕事の品質と評判に関連していることを理解しています。

厳格なクライアントおよびエンゲージメントの受け入れおよび継続ポリシーとプロセスは、KPMGの評判を保護し、KPMGブランドをサポートし、高品質の専門サービスを提供する能力の重要な部分を支えています。したがって、KPMGインターナショナルは、すべてのメンバーファームがクライアントとの関係を受け入れるか継続するか、そのクライアントに対して特定のエンゲージメントを実行するかどうかを決定するために実施する必要があるポリシーと手順を確立しました。  
  
見込みクライアントおよびエンゲージメント受け入れプロセス  
  
KPMG AZSAは、すべての見込みクライアントを評価します。  
  
これには、見込みクライアント、その主要な経営陣、および重要な有益所有者に対するバックグラウンドチェックが含まれ、適切に情報を分析して受け入れ決定を行うことができます。この評価には、クライアントのリスクプロファイルを評価するためのアンケートの記入と、クライアント、その主要な経営陣、取締役、および所有者に関する背景情報の取得が含まれます。また、地域の法的および/または規制要件を満たすために必要な追加情報も取得します。  
  
評価パートナーと同様に、2番目のパートナーが各見込みクライアントの評価を承認します。クライアントが「高リスク」と見なされる場合、リスク管理パートナー、場合によってはオフィスマネージングパートナー、または品質担当のエグゼクティブボードメンバーによる追加の承認が必要です。  
  
エンゲージメント評価  
  
各見込みエンゲージメントも、エンゲージメントに関連する潜在的なリスクを特定するために評価されます。この評価には、潜在的な独立性および利益相反の問題（Sentinel™、KPMGの利益相反および独立性チェックシステムを使用）、エンゲージメント成果物の目的および使用、およびエンゲージメントの種類に特有の要因など、さまざまな要因が考慮されます。監査サービスの場合、これにはクライアントの財務管理チームの能力、エンゲージメントのスタッフに割り当てられた人員のスキルと経験、および詐欺リスクが含まれます。評価は、他の上級KPMG AZSA職員と協議し、必要に応じて品質およびリスク管理リーダーシップによるレビューを含みます。  
  
初めて監査サービスが提供される場合、見込みエンゲージメントチームは、クライアントに提供された非監査サービスおよび他の関連するビジネスおよび個人関係のレビューを含む、追加の独立性評価手順を実行する必要があります。  
  
既存の監査クライアントが公共利益法人になるか、クライアントの状況の変更に伴って追加の独立性制限が適用される場合も、同様の独立性評価が実施されます。公共利益法人である見込み監査クライアントに対して独立性への脅威を特定および評価するための特定の手順（セクション4.（2）⑦で詳細に説明）に従います。  
  
見込みクライアントおよびエンゲージメントの全体的なリスク評価に応じて、特定されたリスクを軽減するための追加のセーフガードが導入される場合があります。潜在的な独立性または利益相反の問題は、受け入れ前に文書化および解決する必要があります。  
  
潜在的な独立性または利益相反の問題が、専門基準および当社のポリシーに従って満足のいく方法で解決できない場合、または他の品質およびリスク問題が適切に軽減できない場合、見込みクライアントまたはエンゲージメントは拒否されます。  
  
継続プロセス  
  
KPMG AZSAは、すべての監査クライアントを毎年再評価します。再評価では、継続的な関連性に関する問題と、実施する必要がある緩和手順を特定します。  
  
定期的または長期間続く非監査エンゲージメントも再評価の対象となります。また、クライアントおよびエンゲージメントのリスクプロファイルに変更がある可能性があることを示す指標がある場合、再評価が必要です。  
  
撤退  
  
エンゲージメントまたはクライアント関係から撤退すべきことを示す情報を入手した場合、社内で相談し、必要な法的、専門的、および規制上の責任を特定します。また、必要に応じて、ガバナンスおよび適切な権限に関与する者と連絡を取ります。  
  
クライアントポートフォリオ管理  
  
当社のリーダーシップは、各エンゲージメントに対して適切な能力、能力、時間、および権限を持つエンゲージメントパートナーを任命します。  
  
監査パートナーのクライアントポートフォリオは、監査パートナーとの個別の会話で少なくとも年1回レビューされます。レビューでは、クライアントポートフォリオ全体の業界、性質、およびリスクと、パートナーがすべてのクライアントに対して品質の高い監査を提供する能力、能力、および容量が考慮されます。  
  
明確な基準と堅牢な監査ツール  
  
すべてのKPMG AZSAプロフェッショナルは、KPMGインターナショナルおよびKPMG AZSAのポリシーおよび手順、独立性ポリシーを含む、これらの期待に応えるために、さまざまなツールとガイダンスが提供されます。  
  
監査エンゲージメントのために設定されたポリシーと手順は、会計、監査、倫理、品質管理の基準、およびその他の関連する法律および規制の関連要件を組み込んでいます。  
  
監査へのアプローチ

監査へのアプローチ  
  
KPMGは、ネットワークの監査能力を進化させるために大幅な投資を行っており、今後もKPMGクララプラットフォームを通じて提供される新しいグローバル電子監査ワークフローを含む、データ、自動化、可視化を活用した高度な機能を組み込んだ新技術や新興技術を継続的に統合できるスマートでモジュール式の監査プラットフォームであるKPMGクララプラットフォームの開発に取り組んでいます。データ＆アナリティクス（D&A）は、KPMGメンバーファームが監査証拠を入手し、デジタル時代のクライアントとやり取りする方法に不可欠です。  
  
KPMGの高品質な監査プロセスは、引き続き以下を含みます。  
  
エンゲージメント全体を通じたタイムリーなパートナーとマネージャーの関与;  
  
適切な知識へのアクセス、専門家の関与、研修と経験の要件、関連する業界の専門知識を含む;  
  
監査中に入手したすべての監査証拠の批判的評価、適切な専門的判断の行使;  
  
エンゲージメントチームの継続的な指導、監督、レビュー。  
  
  
  
一貫した監査方法論とツール  
  
KPMGの基準とツールを完全かつ最新の状態に保つために、多くのリソースが投入されています。KPMGの監査方法論は、グローバルサービスセンター（GSC）が開発し、国際監査基準（ISA）の要件に基づいています。KPMG監査マニュアル（KAM）に記載されているKPMGの監査方法論には、ISAを超える追加の要件が含まれており、KPMGインターナショナルは監査品質を向上させると考えています。方法論は、監査手続きの実施において適切な専門的懐疑心を適用することを強調し、関連する倫理的要件（独立性を含む）の遵守を求めています。監査方法論、ガイダンス、ツールの改善は、標準、新興監査の焦点領域、監査品質結果（内部および外部）に準拠して定期的に行われます。主要なトピックには、会計見積もり、内部統制、収益認識、グループ監査、監査サンプリング、リスク評価が含まれます。  
  
  
  
KPMGメンバーファームは、KAMに追加の専門的、法的、規制上の要件に準拠するためのローカル要件および/またはガイダンスを追加することができます。  
  
KAMには、重要な誤りのリスクを特定および評価する手続きや、評価されたリスクに対応する手続きなどの例やガイダンスが含まれています。  
  
KPMGの監査方法論は、適切な場合に専門家の使用を奨励し、また、特定の基準が満たされている場合や、監査チームが適切または必要と判断する場合には、コア監査エンゲージメントチームに関連する専門家の関与を求めています。  
  
KAMに記載されている方針と手続きは、監査に特化しており、すべてのKPMGメンバーファーム、機能、および人員に適用されるグローバルQ＆RMマニュアルに記載されている方針と手続きを補完しています。  
  
KPMGの監査ワークフローは、eAudITというアクティビティベースのワークフローおよび電子監査ファイルを通じて実現されています。eAudITは、KPMGの監査方法論、ガイダンス、業界知識、および監査業務の実行と文書化に必要なツールを統合したKPMGの監査文書化ワークフローであり、75,000人以上の専門家が高品質で一貫した監査を完了することができます。  
  
eAudITは、監査対象となるエンティティの性質に応じて、および専門的な基準および適用可能な法的および規制上の要件に従って、関連する要件とガイダンスを提示するように「スケール」することができます。監査ガイダンス、専門基準、および文書化テンプレートへの直接アクセスが提供されます。  
  
KPMG監査方法論（KAM）およびワークフローツール（eAudIT）の改訂および強化に向けた大規模な投資が進行中であり、2018年に試験運用されたKPMGクララワークフローの導入が、2019年に初期導入が予定され、2020年から本格導入が開始される予定です。  
  
  
  
KPMGクララ、KPMGクララワークフロー、および監査データ＆アナリティクス（D&A）  
  
KPMGインターナショナルは、監査品質の向上、監査の実施における一貫性の確保、およびメンバーファームおよびグローバルなエンゲージメントの監視の強化に向けて、大幅な投資を行っています。  
  
  
  
KPMGクララ  
  
2017年、KPMGインターナショナルは、KPMGの監査データ＆アナリティクス（D&A）機能、革新的な新技術、コラボレーション機能、および監査ワークフローを統合したKPMGクララ（KPMGのスマート監査プラットフォーム）のグローバル展開を開始しました。  
  
これは、KPMGの以下の野心を表しています。  
  
新しい、現代的な技術を活用したインターフェースとコラボレーション機能を通じて、当社の人々とクライアントの監査実施を変革する;  
  
監査をデジタル化し、新しいD&Aルーチンを提供するために必要な機能を統合する;  
  
強化され、再設計されたワークフローを実現する;  
  
エンゲージメントレベルおよびエンゲージメントポートフォリオ全体での監視機能の開発を、エンゲージメントチームおよびメンバーファームが使用するために組み込む;  
  
グローバルリーダーシップがメンバーファームの品質管理システムの効果を監視することを支援する;  
  
メンバーファームのカスタマイズとスケール、および将来の機能を可能にする拡張可能な監査プラットフォームを開発する。  
  
  
  
  
  
KPMGクララワークフロー

2017年のKPMGクララの立ち上げを受けて、KPMGインターナショナルは、KPMG監査チームがKPMG監査を実行および文書化するために使用する新しいワークフローツールを作成しています。直感的で使いやすく、モダンなデザインです。新しいシステムは、監査チームを一連のステップで論理的に案内するワークフローであり、情報やビジュアルの表示がより明確で、必要に応じて知識やガイダンスが利用でき、高度なD&A機能が組み込まれています。ワークフローと方法論はスケーラブルであり、監査エンゲージメントの規模と複雑さに応じて要件を調整します。このグローバルに推進されるプロジェクトは、KPMGプロフェッショナルによる監査の実行を大幅に刷新し、監査品質の向上を促進します。  
  
監査データ＆アナリティクス（D&A）  
  
KPMGの監査は、D&Aによって強化されています。  
  
データ集団に対する理解を深め、高リスク取引に焦点を当てることで監査品質が向上します。  
  
KPMGのIT環境内およびデータ転送中のアクセス制限により、セキュリティが確保されています。  
  
詳細な分析により、外れ値や異常の背後にある理由や根本原因を明らかにし、高リスク取引やプロセス領域の可視性を向上させることで透明性が提供されます。  
  
D&Aツールとルーチンは、監査に関する原則と専門的な基準に基づいて構築されており、監査人の責任を免除するものではありません。  
  
独立性、誠実性、倫理、客観性  
  
概要  
  
監査人の独立性は、国際的な専門基準と規制要件の基石です。  
  
KPMGインターナショナルは、IESBAの倫理規定の要件を取り入れた詳細な独立性ポリシーと手順を持っており、KPMGのグローバルQ＆RMマニュアルに記載されています。自動化ツールがこれらの要件の遵守を支援します。  
  
これらのポリシーは、公認会計士法およびJICPAが発行する倫理規定によって発行された基準の遵守を確保するための他のプロセスによって補完されています。  
  
これらのポリシーとプロセスは、事業の独立性、個人の独立性、事業の財務関係、雇用後の関係、パートナーのローテーション、監査および非監査サービスの承認などの分野をカバーしています。  
  
KPMGインターナショナルには、グローバル独立性グループの責任者であるパートナーがおり、KPMGメンバーファームで堅牢で一貫した独立性ポリシーと手順が確立され、それらの要件を遵守するためのツールが利用できるように、専門家チームがサポートしています。  
  
KPMG AZSAには、倫理および独立性パートナー（EIP）が指定されており、倫理および独立性ポリシーおよび手順の方向性と実行を主に担当しています。  
  
年間を通じてKPMGインターナショナルの倫理および独立性ポリシーに対する修正は、定期的な品質およびリスク通信に含まれています。  
  
メンバーファームは、電子メールアラートで指定された変更を実施する必要があり、これは内部監視プログラムを通じて確認されます。  
  
KPMG AZSAの職員は、内部規則で定められた事項についてEIPに相談することが求められます。事実や状況によっては、グローバル独立性グループとの相談も必要になる場合があります。  
  
個人の財政独立  
  
KPMGインターナショナルのポリシーでは、KPMGメンバーファームおよびKPMGプロフェッショナルが、KPMGメンバーファームの監査クライアント、その経営陣、取締役、および重要な所有者との禁止された金融利益および禁止された関係から解放されることが求められています。また、ポリシーは、IESBAの倫理規定による監査クライアント証券の所有制限を、当社のすべてのパートナーおよびマネージャー以上のスタッフに適用しています。  
  
KPMG AZSAのプロフェッショナルは、継続的に適切な問い合わせを行い、他の適切な行動を取ることにより、独立性の目的で制限されている個人の財政、ビジネス、または家族の利益を持っていないことを確認する責任があります。  
  
他のKPMGメンバーファームと同様に、私たちは独立性遵守システム（KICS）というウェブベースのシステムを使用して、プロフェッショナルが個人の独立性投資ポリシーを遵守するのを支援しています。このシステムには、一般に入手可能な投資の在庫が含まれています。  
  
パートナーおよびすべてのマネージャー以上のクライアント対応者は、投資を行う前にKICSシステムを使用して、それが許可されているかどうかを特定する必要があります。また、KICSで自分のすべての投資の記録を維持することも求められます。これにより、投資が制限されると自動的に通知されます。新たに制限された投資は、通知から5営業日以内に処分する必要があります。  
  
KPMGは、プロフェッショナルのサンプルに対する独立性遵守監査のプログラムの一環として、パートナーおよびマネージャーのこの要件の遵守を監視しています。  
  
雇用関係  
  
監査クライアントにサービスを提供するプロフェッショナルは、機能に関係なく、その監査クライアントとの雇用交渉に入る予定である場合、EIP、監査クライアントのエンゲージメントパートナー、および人事部に通知する必要があります。

監査チームの元メンバーやKPMG AZSAの元パートナーは、KPMG AZSAとのすべての重要な関係を解消し、固定されていない支払いやKPMG AZSAにとって重要な支払いを含む、KPMG AZSAのビジネスや専門活動に参加しなくなるまで、監査クライアントに特定の役割で参加することが禁止されています。  
  
公益性のある監査クライアントのキーオーディットパートナーや監査チェーンのコマンドメンバーは、所定の期間が経過するまで、特定の役割でクライアントに参加することができない「クーリングオフ」期間が適用されます。  
  
KPMG AZSAの専門家が監査クライアントに雇用されることに関連する要件を伝達し、監視しています。  
  
  
  
ファームの財務独立性  
  
KPMGメンバーファームは、監査クライアント、その経営陣、取締役、および重要な所有者との禁止された利益や関係からも自由である必要があります。  
  
KPMG AZSAをはじめとする他のKPMGメンバーファームでは、KICSを使用して、ウェブベースの独立性追跡システムに自社の投資（たとえば、年金や退職金プラン、財務活動を通じて行われる投資）を記録しています。この記録は、コンプライアンスプロセスを通じて監視されています。  
  
  
  
ビジネス関係/サプライヤー  
  
KPMG AZSAは、IESBAの倫理規定、日本公認会計士法、JICPAが発行する倫理規定、SEC、米国PCAOBルール要件に従ってビジネス関係を維持するように設計されたポリシーと手順を持っています。  
  
  
  
独立性クリアランスプロセス  
  
KPMG AZSAは、公益性のある見込み監査クライアントに関連する独立性への脅威を特定および評価するための特定の手順を実施しており、これらの手順は、「独立性クリアランスプロセス」とも呼ばれ、これらのエンティティに対する監査業務の受託前に完了しなければなりません。  
  
  
  
独立性の研修と確認  
  
KPMG AZSAのすべてのパートナーおよびクライアントサービス専門家、および特定の他の個人は、KPMG AZSAに参加した際およびその後毎年、自分のグレードと機能に適した独立性研修を受講しなければなりません。この研修を受講する必要がある新入社員は、KPMG AZSAに参加してから30日以内または監査クライアント（その関連会社や関連団体を含む）にサービスを提供する前に、いずれか早い方を選択して研修を受講しなければなりません。  
  
また、すべての社員に対して、グローバル行動規範、KPMG AZSA行動規範、倫理的行動、KPMGの贈賄防止ポリシー、法令、規制、専門基準の遵守、法令、規制、専門基準、KPMGのポリシーに対する疑わしいまたは実際の違反の報告に関する研修を2年ごとに提供しています。新入社員は、KPMG AZSAに入社してから3か月以内にこの研修を受講する必要があります。  
  
雇用の受諾時に、すべてのKPMG社員は、適用される倫理および独立性のルールおよびポリシーを遵守し、遵守することを確認する必要があります。  
  
その後、すべてのKPMG社員は、確認書に記載された年間を通じて適用される倫理および独立性ポリシーを遵守し続けたこと、および適用される行動規範を理解し遵守したことを示す年次確認書に署名する必要があります。この確認は、個人がKPMGの独立性ポリシーを遵守し理解していることを証明するために使用されます。  
  
  
  
パートナーのローテーション  
  
当社のローテーションポリシーは、公認会計士法およびJICPAの倫理規定と一致しており、当社はより厳格な現地適用ローテーション要件に準拠する必要があります。  
  
KPMG AZSAのパートナーは、適用される法律、規制、独立性ルール、およびKPMGインターナショナルポリシーに基づいて、監査クライアントに対する責任を定期的にローテーションさせる対象となります。  
  
これらの要件は、特定の役割を担うパートナーがクライアントに監査サービスを提供できる年数に制限を設け、その後、これらのパートナーが監査に参加しない期間（監査の品質管理を提供しない期間、エンゲージメントチームやクライアントと技術的または業界固有の問題について相談しない期間、または監査の結果に何らかの影響を与えない期間）を設けます。  
  
KPMG AZSAは、監査業務責任者（およびローテーション要件がある場合のその他のキーロール、たとえばキーオーディットパートナーやEQCレビュアー）のローテーションを監視し、必要なコンピテンスと能力を持つパートナーを割り当てて、クライアントに一貫した品質のサービスを提供できるように移行計画を策定しています。パートナーのローテーション監視は、コンプライアンステストの対象となります。  
  
  
  
非監査サービス  
  
監査クライアントに提供できるサービスの範囲に関連する、IESBAの原則および適用される法律および規制と一致したポリシーを持っています。

KPMG AZSAによって開発されるすべての新規および改訂されたサービスを審査および承認するプロセスを確立および維持することが求められています。KPMG AZSAのEIPは、潜在的な独立性の問題の審査に関与し、複数の管轄区域で監査または保証クライアントに提供することを意図した開発されたサービスの場合、グローバル・インデペンデンス・グループが関与します。  
  
Sentinel™は、これらのポリシーに準拠することを容易にするだけでなく、利益相反の潜在的な問題を特定するのにも役立ちます。  
  
すべての見込みエンゲージメントに関する特定の情報（サービスの説明や料金など）は、エンゲージメント受け入れプロセスの一部としてSentinel™に入力する必要があります。リード監査エンゲージメントパートナーは、上場企業および特定の他の監査クライアントおよびその関連会社のグループ構造をSentinel™で維持することが求められており、また、提案された非監査サービスの提供から生じる可能性のある独立性の脅威と、それらの脅威に対処するための利用可能なセーフガードを特定および評価する責任も負っています。Sentinel™は、グループ構造が維持されているエンティティのリード監査エンゲージメントパートナーが、それらのエンティティに対する提案されたサービスを世界中で承認または拒否することを可能にします。  
  
料金依存性  
  
KPMGインターナショナルのポリシーは、監査クライアントからの総料金が、監査意見を表明するメンバーファームの総料金の大部分を占める場合、自己利益または脅迫の脅威が生じる可能性があることを認識しています。  
  
公共利益エンティティ監査クライアントおよびその関連エンティティからの総料金が、2年連続で特定のメンバーファームが受け取る総料金の10％を超える場合、以下の要件が適用されます。  
  
1. 監査エンティティのガバナンスを担当する者に対して開示される。  
2. 別のKPMGメンバーファームからEQCレビュアーが任命される。  
  
過去2年間で、KPMG AZSAが受け取った総料金の10％を超える監査クライアントはありませんでした。  
  
利益相反の回避  
  
利益相反は、KPMG AZSAのスタッフがクライアントとの個人的なつながりを持っており、それが客観性を維持する能力に干渉するか、または干渉すると認識される可能性がある状況、または取引の他の当事者に関する機密情報を個人的に保有している場合に生じる可能性があります。このような状況では、RMPまたはEIPとの相談が必要です。  
  
すべてのKPMGメンバーファームおよびスタッフは、利益相反を特定および管理する責任があります。利益相反とは、十分に情報を持つ合理的な観察者が、メンバーファームまたはそのスタッフが客観的であるか、または偏りなく行動する能力に影響を与えるかもしれないと認識される状況または状況です。  
  
すべてのKPMGメンバーファームは、法的および専門的要件に従ってこれらの問題に対処できるように、潜在的な利益相反の特定のためにSentinel™を使用する必要があります。KPMG AZSAには、潜在的な利益相反を特定し、影響を受けるメンバーファームと協力して利益相反を解決する責任を持つリスク管理リソース（「リゾルバ」）があります。その結果は文書化されなければなりません。  
  
利益相反が生じるか、または生じると認識される可能性を管理するために、特定の手順を適用する必要がある場合があります。これにより、すべてのクライアントの機密性が維持されます。たとえば、異なるクライアントを担当するエンゲージメントチーム間に正式な仕切りを設け、その仕切りの運用を監視する手配をすることが含まれます。  
  
エスカレーションおよび紛争解決手順は、利益相反の管理方法について合意に達することができない状況に適用されます。  
  
潜在的な利益相反の問題が適切に緩和できない場合、エンゲージメントは辞退または終了されます。  
  
独立性ポリシーの違反  
  
すべてのKPMGスタッフは、独立性違反に気付いたらすぐにEIPに報告することが求められています。独立性ポリシーに違反した場合、コンプライアンスレビューで特定された場合、自己申告された場合、またはその他の場合に、専門家は独立性懲戒ポリシーの対象となります。  
  
KPMG AZSAは、独立性ポリシー違反に関する文書化された懲戒ポリシーを持っています。懲戒ポリシーは、すべての専門家に通知され、独立性規則のすべての違反に適用され、違反の深刻さを反映した段階的な制裁が含まれます。  
  
監査人の独立性規制の違反は、監査クライアントのガバナンスを担当する者に報告されます。これは、彼らとの合意に基づいて行われますが、最低限年1回行われます。  
  
法令、規制、および贈賄および腐敗防止への遵守  
  
法令、規制、および基準の遵守は、すべてのKPMG AZSAスタッフにとって重要な側面です。特に、贈賄と腐敗に対してはゼロトレランスです。  
  
適用法または現地の慣行で合法または許可されている場合であっても、あらゆる種類の贈賄への関与を禁止しています。また、第三者による贈賄も容認しません。これには、クライアント、サプライヤー、または公務員による贈賄が含まれます。  
  
KPMGインターナショナルの贈賄および腐敗防止ポリシーに関する詳細情報は、贈賄および腐敗防止サイトで見つけることができます。  
  
インサイダー取引防止

インサイダー取引防止  
  
インサイダー取引を防止するために、KPMG AZSAは、資本市場における情報の信頼性を確立することを目的とした内部規則および手続きを持っています。これには、監査対象の証券の保有や取引の禁止、ウェブベースの独立性追跡システムへの登録を通じて、日本および他の管轄区域での上場企業への個人投資を監視することが含まれます。  
  
すべてのパートナーと従業員は、適切な研修を通じてインサイダー取引ポリシーを理解し、期間中適用されるポリシーに従っていることを毎年確認します。  
  
  
  
適切に資格を持った人材の採用、育成、配置  
  
品質の主要な要因の1つは、専門家が適切なスキルと経験、情熱と目的を持って、最高品質の監査を提供できることを確保することです。これには、適切な採用、育成、昇進、および専門家の配置が必要です。KPMGの業績開発アプローチは、KPMGの価値観にリンクし、個人的および集団的な成功に必要なものを明確にするように設計されています。監査品質の確保は、KPMGクララワークフローの展開とそれに関連する更新されたKPMG監査方法論をサポートするための研修、計画、および開発に不可欠な要素であり、すべてのKPMG研修プログラムに組み込まれています。  
  
  
  
採用  
  
KPMG AZSAは、従業員が潜在能力を発揮し、最善を尽くすことに誇りと意欲を持てる環境を作り出すことで、優れた雇用主であることを目指しています。  
  
  
  
すべての候補者は、応募書類の提出と、応募書類の審査、コンピテンシーに基づく面接、心理テストおよび能力テストを含むさまざまな選考プロセスを経て採用されます。  
  
  
  
KPMG AZSAは、候補者の以前の会社/雇用主からの機密情報を受け入れません。シニアグレード（つまり、パートナー、ディレクター）の個人が採用される場合、EIPによって彼らとの独立性に関する正式な議論が行われます。  
  
  
  
パートナー採用プロセスは厳格で徹底的であり、パートナーズミーティングやシニアエグゼクティブボードを含む適切なリーダーシップメンバーが関与します。パートナー採用の基準は、プロフェッショナリズムと誠実さ、品質、優れた雇用主であることへのコミットメントと一致しています。  
  
  
  
個人の成長  
  
すべての専門家が、技術スキルに加えて、ビジネススキルとリーダーシップスキルを持って質の高い仕事を行うことが重要です。  
  
  
  
監査に関連して、専門家が監査業務におけるキャリアの基盤となるスキル、行動、および個人的資質を開発する機会が提供されます。個人の効果を高め、技術、リーダーシップ、ビジネススキルを開発するためのコースが利用可能です。  
  
さらに、各パートナーおよび従業員に対して、監査全体を通じて専門的懐疑心を高め、維持し、展示する重要性を確保し、詐欺に関する指導および研修の適切な機会を提供するために、研修セッションが継続的に提供されます。  
  
KPMG AZSAの専門家は、仕事でのコーチングやメンタリング、厳しい課題、国内のローテーションおよびグローバルな機動性の機会を通じて、高いパフォーマンスを発揮するために育成されます。  
  
  
  
インクルージョンとダイバーシティプログラム  
  
KPMG AZSAは、包括的な文化を育成するために努力しています。包括的であることにより、最も幅広いスキル、経験、および視点を持つ成功したチームを結集することができます。  
  
私たちは、異なる個性を持つ各パートナーおよび従業員が、互いの違いを尊重し、最大限に活用しながら、「高品質なサービスを提供することで監査クライアントと社会に貢献する」という共通の目標に向かって高いパフォーマンスを達成することを奨励しています。  
  
KPMG AZSAは、さまざまなアプローチを採用して、より多様で柔軟な働き方に適した環境を整備しています。具体的な取り組みには、グローバル志向の人材の育成、女性の労働力参加の促進、出産・育児・介護と仕事の両立を支援する取り組み、障害者の雇用促進、多様性を受け入れ、活用する企業文化の創造、テレワークの導入、オフィスの働き方の変革などがあります。  
  
KPMGのインクルージョン＆ダイバーシティに関する詳細は、こちらをご覧ください。  
  
  
  
品質とコンプライアンス指標を含む評価プロセス  
  
KPMG AZSAの専門家、パートナーを含む、は年間の目標設定と業績評価を行います。各専門家は、合意された目標、リーダーシップ能力の実証、技術能力、市場知識に基づいて評価されます。継続的な改善の文化が、ジュニアおよびシニアの同僚、同僚からのフィードバックを促進するように励まされます。収集されたフィードバックは、業績評価の重要な部分を形成します。  
  
  
  
KPMG AZSAは、品質とコンプライアンスの事故を監視し、パートナー、ディレクター、およびマネージャーの全体的な評価、昇進、および報酬の決定に品質指標を維持します。  
  
パートナーも、主要な品質およびコンプライアンス指標に基づいて評価されます。  
  
これらの評価は、業績評価を行い、パフォーマンス評価を提案できる立場にあるパフォーマンスマネージャーおよびパートナーによって行われます。KPMG AZSAの方針では、監査パートナーが監査クライアントに対する非保証サービスの販売成功に基づいて評価されたり、報酬を受け取ることが禁止されています。  
  
  
  
報酬

報酬  
  
報酬と昇進のポリシーは、明確でシンプルであり、パートナーにとっては、主要な監査品質とコンプライアンス指標の達成を含むパフォーマンス評価プロセスにリンクしています。これにより、パートナーや従業員が自分たちに何が求められているか、そして報酬として何を受け取ることができるかを理解することができます。  
  
報酬の決定は、個人と組織（メンバーファーム）のパフォーマンスの両方を考慮して行われます。GPSを通じて、従業員が自分のパフォーマンスが報酬に反映されていると感じる程度が測定され、それに応じた行動計画が策定されます。  
  
  
  
昇進  
  
パフォーマンス評価の結果は、パートナーやスタッフの昇進や報酬に直接影響し、場合によってはKPMGとの継続的な関係にも影響します。  
  
  
  
パートナー入会  
  
パートナーシップへの入会プロセスは厳格で徹底的であり、パートナーズミーティングやシニアエグゼクティブボードを含む適切なリーダーシップメンバーが関与します。  
  
KPMG AZSAパートナーシップへの入会基準は、プロフェッショナリズムと誠実さ、品質、優れた雇用主であることへのコミットメントと一致しており、KPMGの行動能力と強く連携しており、一貫した原則に基づいています。  
  
  
  
プロフェッショナルの割り当て  
  
KPMG AZSAは、エンゲージメントパートナーとその他のプロフェッショナルを、彼らのスキルセット、関連する専門知識や業界経験、および割り当てやエンゲージメントの性質に基づいて特定のエンゲージメントに割り当てるための手続きを整えています。  
  
機能責任者は、パートナー割り当てプロセスを担当します。主な考慮事項には、パートナーの経験と、エンゲージメントの規模、複雑さ、リスクプロファイル、および提供されるサポートの種類（つまり、エンゲージメントチームの構成と専門家の関与）を考慮して、年次パートナーポートフォリオレビューに基づくキャパシティが含まれます。  
  
監査エンゲージメントパートナーは、エンゲージメントチームがKAM、専門基準、および適用される法的および規制要件に従って監査エンゲージメントを実施するための適切な能力、研修、および能力（時間を含む）を持っていることを確認する必要があります。これには、自社や他のKPMGメンバーファームの専門家を巻き込むことが含まれる場合があります。  
  
  
  
エンゲージメントチーム全体として適切な能力と能力が期待されることを考慮する際、エンゲージメントパートナーの考慮事項には、以下が含まれる場合があります。  
  
適切な研修と参加を通じて、同様の性質と複雑さの監査エンゲージメントに対する理解と実践的な経験;  
  
専門基準および法的および規制要件の理解;  
  
関連する情報技術や会計や監査の専門分野に関連する適切な技術スキル;  
  
クライアントが事業を展開する関連業界の知識;  
  
専門的判断力の適用;  
  
KPMG AZSAの品質管理ポリシーおよび手順の理解;  
  
QPRの結果と規制検査の結果、および;  
  
従業員からの洞察（GPS）。  
  
  
  
従業員からのフィードバック - 人々の調査（GPS）  
  
KPMG Japanは、2年に1度、すべての従業員を対象に、独立したGPSに参加して、KPMGでの働く経験に関する認識を共有するよう招待します。  
  
GPSは、従業員エンゲージメント指数（EEI）を通じて従業員のエンゲージメントの全体的な測定を提供するとともに、エンゲージメントを促進する要因が強みであるか、または機会であるかに関する洞察を提供します。また、エンゲージメントレベルを強化する機会を特定します。結果は、機能や地域、グレード、役割、性別によって分析することができ、追加の洞察を提供します。従業員エンゲージメントに影響を与えることが知られているカテゴリーに関して、どのように進んでいるかについての追加の洞察が提供されます。  
  
また、調査は、監査品質、KPMGの価値観の維持、従業員とパートナーの品質、リーダーシップ、トップのトーンに関する態度に関連する結果をKPMG AZSAリーダーシップおよびKPMGグローバルリーダーシップに提供します。  
  
KPMG AZSAは、GPSに参加し、結果を監視し、調査の結果に対して適切な対応を行います。  
  
これには、以下に関連するGPS結果の監視が含まれます。  
  
監査品質とトップのトーン;  
  
EEIを通じた従業員のエンゲージメント。  
  
GPSの結果は、KPMGネットワーク全体で集計され、毎年グローバルボードに提出され、適切なフォローアップアクションが合意されます。  
  
  
  
技術的卓越性と品質サービス提供へのコミットメント  
  
すべてのKPMG AZSAプロフェッショナルには、必要な技術研修とサポートが提供されます。これには、専門家やプロフェッショナルプラクティス部門へのアクセスが含まれ、監査、報告、リスク管理の分野で豊富な経験を持つ上級プロフェッショナルがエンゲージメントチームにリソースを提供するか、相談に応じるために構成されています。  
  
KPMG AZSA内に適切なリソースがない場合、他のKPMGメンバーファームの高度にスキルを持つKPMGプロフェッショナルのネットワークへのアクセスが提供されます。  
  
同時に、監査ポリシーでは、プロフェッショナルが割り当てられたエンゲージメントに適切な知識と経験を持っていることが求められます。  
  
  
  
ライフタイムラーニング戦略

終身学習戦略  
  
上記のセクションで説明した個人の成長に加えて、終身学習戦略は、すべての専門家が技術的な能力を維持し、適用される規制および専門的な開発要件に準拠することを求めるポリシーによって支えられています。  
  
フォーマルトレーニング  
  
開発と提供のための年間トレーニングの優先順位は、グローバル、地域、およびKPMG AZSAレベルの監査学習および開発の指導グループによって特定されます。トレーニングは、教室、デジタル学習、およびオンザジョブで監査人を支援するためのパフォーマンスサポートを組み合わせて提供されます。  
  
監査学習および開発チームは、GSC、ISG、および適切な場合はメンバーファームの専門職業実践部門（DPP）の主題専門家およびリーダーと連携して、トレーニングが最高品質であり、仕事でのパフォーマンスに関連し、タイムリーに提供されることを確認します。  
  
IFRSおよび米国GAAPエンゲージメントのライセンスと必須要件  
  
ライセンス  
  
すべてのKPMG AZSAの専門家は、適用される専門職のライセンス規則に準拠し、彼らが実践する管轄区域での継続的な専門開発（CPD）要件を満たすことが求められます。  
  
ポリシーと手順は、ライセンス要件の遵守を容易にするように設計されています。  
  
私たちは、エンゲージメントで働く監査専門家が、適切な監査、会計、業界の知識と経験を持ち、主要な財務報告フレームワークに精通していることを確認する責任があります。  
  
必須要件 - IFRSおよび米国GAAPエンゲージメント  
  
IFRSが主要な財務報告フレームワークでない国でのIFRSエンゲージメントに従事するパートナー、マネージャー、およびEQCレビュアーには、特定の要件があります。同様のポリシーは、米国GAAPおよび/または米国監査基準に従って監査された財務報告書または財務情報に関する報告を行うために、米国外で実施されたエンゲージメントに適用されます。これには、エンティティの財務報告に対する内部統制の有効性に関する報告も含まれます。  
  
これらは、パートナー、マネージャー、およびEQCレビュアーが関連するトレーニングを完了し、エンゲージメントチームが全体として十分な経験を持ってエンゲージメントを実施するか、または不足を解消するための適切なセーフガードを実施していることを要求しています。  
  
専門家ネットワークへのアクセス  
  
KPMG AZSAのエンゲージメントチームは、地元のKPMG専門家のネットワークおよび他のKPMGメンバーファームの専門家にアクセスできます。  
  
監査チームのメンバーであり、監査エンゲージメントでの専門家の関与に全体的な責任を持つ専門家は、役割を適切に果たすための能力、能力、および客観性を持っています。これらの専門家には、監査の概念に関するトレーニングが提供されます。  
  
特定の監査エンゲージメントに専門家（例：情報技術、税務、精算、法医学、評価）を割り当てる必要性は、監査エンゲージメントの受諾および継続プロセスの一部として検討されます。  
  
コンサルテーションの文化  
  
KPMGは、メンバーファームチームの意思決定プロセス全体を支援し、監査品質に大きく貢献するコンサルテーションの強力な文化を奨励しています。  
  
KPMG AZSAは、コンサルテーションが強みと認識され、困難または論争のある問題について相談することを奨励する文化を推進しています。  
  
監査エンゲージメントの専門家が困難または論争のある問題に対処するために、重要な会計および監査問題の相談および文書化、およびエンゲージメント問題に関する意見の相違の解決を容易にする手順が確立されています。  
  
これらのプロトコルには、詐欺による重大な誤りの兆候が特定された場合の相談のポリシーと手順が含まれています。  
  
適切なコンサルテーションサポートが、専門職業実践リソースを通じて監査エンゲージメントの専門家に提供されます。  
  
GSCおよびISGを通じて、すべてのメンバーファームおよびその専門家に技術監査および会計サポートが提供されます。また、SEC外国登録者向けの米国キャピタルマーケットグループも利用できます。  
  
グローバルサービスセンター（GSC）  
  
GSCのミッションは、協力、革新、および技術を通じてKPMGのグローバル監査事業ネットワークの成功を促進することです。 GSCは、KPMGの監査専門家が効果的かつ効率的な監査を実施するのを支援するために使用されるKPMGの監査方法論および技術ベースのツールを開発、維持、および展開します。 3つのグローバル拠点があり、それぞれの地域に1つずつあり、GSC監査チームは、監査、IT、データサイエンス、数学、統計などの分野の専門家で構成され、世界中から多様な経験と革新的な考え方をもたらしてKPMGの監査能力をさらに進化させています。  
  
国際基準グループ（ISG）  
  
ISGは、世界中からの地理的な代表性を持つグローバルIFRSおよびISAトピックチームと連携して、メンバーファーム間のIFRSおよび監査要件の解釈の一貫性を促進し、新興問題を特定し、タイムリーな基準に基づくグローバルガイダンスを開発します。  
  
GSCおよびISGおよびその活動に関する詳細は、KPMG International Transparency Reportで入手できます。  
  
メンバーファームの専門職業実践リソース

監査および技術的会計事項に関する適切な相談支援は、専門職業資源（専門職業実践部門またはDPPとして言及される）を通じて監査エンゲージメント専門家に提供されます。DPPは、チーム内またはEQCレビュアーとの意見の相違がある場合に、エンゲージメントチームを支援します。未解決の相違は、最終決定のためにシニアパートナーにエスカレートする必要があります。必要に応じてISGも相談に利用できます。  
  
KPMGインターナショナルのポリシーには、メンバーファームDPPの最低要件が含まれています。  
  
ビジネス理解と業界知識の開発  
  
品質の重要な部分は、クライアントのビジネスと業界を詳細に理解することです。  
  
重要な業界については、グローバル監査セクターリードが任命され、関連する業界情報の開発を支援し、KPMG監査ワークフローを通じて監査専門家に提供されます。  
  
この知識には、業界監査手順の例やその他の情報（典型的なリスクや会計プロセスなど）が含まれています。また、特定の業界に関する一般的なビジネス情報や業界知識の概要が提供されています。  
  
効果的かつ効率的な監査の実施  
  
監査の実施方法は、最終結果と同じくらい重要です。KPMG AZSAのスタッフは、効果的かつ効率的な監査の実施にあたって、特定の主要な行動を示し、特定のポリシーと手順に従うことが期待されています。  
  
継続的なメンタリング、監督、およびレビュー  
  
スキルは時間とさまざまな経験を通じて開発されることを理解しています。KPMG AZSAは、品質を妥協することなく、KPMGの専門家のスキルと能力の開発に投資するために、継続的な学習環境を推進し、コーチング文化を支援しています。  
  
エンゲージメントパートナーは、エンゲージメントマネージャーの支援を受けて、監査プロセス全体でコーチングと継続的な学習の文化を推進し、監査の実施において模範を示すことで、継続的な監査品質向上の文化を推進する責任があります。  
  
また、監査中に適切に詐欺リスクに対応するための監督とレビューに関するポリシーと手順があります。  
  
監査中の継続的なメンタリング、コーチング、および監督には、以下が含まれます。  
  
エンゲージメントパートナーが計画の議論に参加すること;  
  
監査エンゲージメントの進捗状況を追跡すること;  
  
エンゲージメントチームの個々のメンバーの能力と能力を考慮し、彼らが十分な時間を持って仕事を行うかどうか、指示を理解しているかどうか、そして仕事が計画されたアプローチに従って行われているかどうかを判断すること;  
  
監査中に発生する重要な問題に対処するために、エンゲージメントチームのメンバーを支援し、計画されたアプローチを適切に修正すること;  
  
エンゲージメント中により経験豊富なチームメンバーとの相談事項を特定すること。  
  
効果的なメンタリングと監督の重要な部分は、実施された作業のタイムリーなレビューであり、重要な問題が迅速に特定、議論、対処されることです。  
  
KPMG AZSAは、詐欺リスクに対する監査対応を監督およびレビューするためのポリシーおよび手順を持っています。  
  
タイムリーなエンゲージメント品質管理（EQC）レビュアー  
  
EQCレビュアーは、エンゲージメントチームとは独立しており、エンゲージメントチームが行ったより重要な決定や判断、および財務諸表の適切性について客観的なレビューを行うための適切な経験と知識を持っています。  
  
すべての上場企業、非上場企業で公的プロファイルが高い企業、適用法令または規制に基づいてEQCレビューが必要なエンゲージメント、およびリスク管理パートナーまたは国の監査責任者が指定するその他のエンゲージメントについて、EQCレビュアーが任命される必要があります。  
  
EQCレビューは、監査報告書の日付の前に行われ、以下の事項が含まれます。  
  
エンゲージメントチームが行った重要な判断に関連する監査文書の選択されたレビューおよびチームが得た結論;  
  
財務諸表と提案された監査報告書のレビュー;  
  
監査報告書の策定における結論の評価および提案された報告書が適切であるかどうかの検討。  
  
エンゲージメントパートナーは、財務報告および監査事項の解決に最終的な責任を負いますが、監査が完了と見なされる前に、EQCレビュアーはすべての重要な質問が解決されたことに満足しなければなりません。  
  
詐欺による重大な誤りの可能性が特定された場合、EQCレビュアーは、監査チームが行ったリスク評価、監査手順、および取得した監査証拠の適切性を評価する必要があります。  
  
KPMG AZSAは、監査品質管理システムの基本的な部分であるEQCレビュアーの役割を強化および改善するために、継続的に努力しています。これを強化するために、いくつかの行動が取られています。  
  
監査エンゲージメントにおけるEQCレビューの基本方針を策定すること;  
  
効果的なレビューを促進するためのEQCレビューに関するガイダンスを発行すること;  
  
監査リスクに関する理解を得るために、EQCレビュアーにEQCレビューの問題を問い合わせ、EQCレビューの現状を監視すること。

シニア・レビュー・ボードは、客観的なレビューを行うための適切な経験と知識を持つパートナーで構成され、EQCレビュー・プロセスの状況を監視し、監査で行われた重要な判断を評価します。  
  
報告  
  
日本の監査基準および関連法規は、監査報告書の形式と内容を大幅に規定しており、クライアントの財務諸表がすべての重要な点で適正に表示されているかどうかについての意見が含まれます。経験豊富なエンゲージメント・パートナーは、実施された監査に基づいてすべての監査意見を形成します。  
  
監査報告書の作成にあたって、エンゲージメント・パートナーは、DPPとの相談を通じて、広範な報告ガイダンスと技術サポートを利用できます。エンゲージメント・パートナーは、監査報告書のユーザーに報告すべき重要な事項がある場合、監査報告書への適格性の追加または強調事項の段落の追加を求める必要があります。  
  
洞察力のある、オープンで正直な双方向のコミュニケーション  
  
監督・監査役会との双方向のコミュニケーションは、監査品質の鍵であり、報告とサービス提供の重要な側面です。  
  
KPMG AZSAでは、監査を通じて発生する問題について、監督・監査役会に情報を提供し、彼らの意見を聞き、理解することの重要性を強調しています。これは、報告書やプレゼンテーション、監査・監査役会への出席、および適切な場合には経営陣や監査・監査役会のメンバーとの継続的な議論を通じて実現しています。  
  
私たちは、重要な会計慣行の適切性に関する評価、会計方針、会計見積もり、財務諸表の開示、監査の過程で注意が向けられた財務報告システムの設計と運用における重大な欠陥、および未訂正の誤りに関する洞察を提供します。  
  
KPMGインスティテュート  
  
KPMGのグローバルIFRSインスティテュートは、多くの企業に影響を与える会計および監査に関する最新情報を提供し、KPMGメンバーファームおよび外部関係者を支援します。  
  
例えば、KPMGグローバルが提供するIFRSインスティテュート（https://home.kpmg/xx/en/home/services/audit/international-financial-reporting-standards.html）やKPMG AZSAのウェブサイトでは、情報へのアクセスが容易になっています。  
  
前任監査人と後任監査人とのコミュニケーション  
  
監査人が変更された場合の前任監査人と後任監査人とのコミュニケーションに関するポリシーと手順を確立しており、これらのコミュニケーションはファームレベルで監視されています。  
  
クライアントの機密保持、情報セキュリティ、データプライバシー  
  
クライアントの機密性を維持する重要性は、グローバルおよびKPMG AZSAの行動規範、研修、およびすべてのKPMGプロフェッショナルが完了する必要がある年次宣誓/確認プロセスを含むさまざまなメカニズムを通じて強調されています。  
  
監査文書や関連する記録の保管期間に関する正式な文書保管ポリシーを策定し、関連するIESBA要件およびその他の適用可能な法律、基準、規制に従っています。  
  
情報セキュリティに関する明確なポリシーを策定しており、幅広い分野をカバーしています。現地の個人情報保護法に準拠したデータプライバシーポリシーがあり、個人情報の取り扱いに関するポリシーと関連する研修がKPMG AZSAの全従業員に必要とされています。  
  
リスク関連情報  
  
エンゲージメント・パートナーが変更された場合に、監査上の重要な問題（詐欺リスクを含む）が後継のエンゲージメント・パートナーに伝達されるように、リスク評価に関する情報を管理するシステムとプロセスを整備しています。  
  
継続的な改善への取り組み  
  
KPMGは、監査の品質、一貫性、効率を継続的に向上させることに取り組んでいます。統合された品質監視およびコンプライアンスプログラムにより、メンバーファームは品質不足を特定し、根本原因分析を行い、個々の監査エンゲージメントおよびKPMGの品質管理システムに関する改善策の策定、実施、報告を行うことができます。  
  
KPMGインターナショナルの統合品質監視およびコンプライアンスプログラムには、品質パフォーマンスレビュー（QPR）プログラム、リスクコンプライアンスプログラム（RCP）、およびグローバルコンプライアンスレビュー（GCR）プログラムが含まれています。  
  
品質監視およびコンプライアンスプログラムは、すべてのメンバーファームでグローバルに管理され、テストおよび報告の方法および範囲が一貫しています。KPMG AZSAは、内部監視プログラムの結果と外部検査プログラムの結果を比較し、適切な対策を講じます。  
  
内部監視およびコンプライアンスプログラム  
  
監視プログラムは、以下の両方を評価します。  
  
適用される基準、適用される法律および規制、およびKPMGインターナショナルのポリシーおよび手順に準拠したエンゲージメントの実施;  
  
KPMG AZSAのKPMGインターナショナルのポリシーおよび手順への遵守および主要な品質管理ポリシーおよび手順の関連性、適切性、および効果的な運用。  
  
統合監視プログラムの結果と教訓は、内部で伝達され、プログラム全体の結果と教訓は、ローカル、地域、およびグローバルレベルで検討され、適切な対策が講じられます。

私たちの内部監視プログラムは、品質管理システムが適切に設計され、効果的に実施されているかどうか、また効果的に機能しているかどうかを評価するのにも寄与しています。  
  
KPMGインターナショナルが開発・運営する2つの検査プログラム、QPRおよびRCPが、監査およびアドバイザリー機能全体で毎年実施されています。  
  
さらに、すべての加盟事務所は、クロスファンクショナルなGCRプログラムによって、少なくとも3年に1回カバーされています。  
  
QPR、RCP、およびGCRへの参加は、KPMGネットワークの継続的なメンバーシップの条件です。  
  
さらに、品質管理システムに従って、以下のプロセスを実施して、詐欺リスクへの監査対応を監視することを確認します。  
  
クライアントおよびエンゲージメントの受け入れと継続;  
  
指導と研修：  
  
監査プロセス（監督とレビュー、事務所内外からの情報への対応、相談、適時なEQCレビュアーとパートナーのローテーションを含む）;  
  
前任監査人と後任監査人とのコミュニケーション。  
  
  
  
監査品質パフォーマンスレビュー（QPR）  
  
QPRプログラムは、エンゲージメントレベルのパフォーマンスを評価し、エンゲージメント品質を向上させる機会を特定します。  
  
各エンゲージメントリーダーは、3年周期で少なくとも1回レビューされます。リスクベースのアプローチがエンゲージメントの選択に使用されます。  
  
KPMG AZSAは、KPMGインターナショナルのQPR指示に従って、年次QPRプログラムを実施しています。  
  
レビューはKPMG AZSAレベルで実施され、地域およびグローバルで監視されています。  
  
加盟事務所の監査QPRレビューは、加盟事務所から独立した経験豊富なリードレビュアーによって監督されています。  
  
  
  
（レビュアーの選択、準備、およびプロセス）  
  
レビュアーの選択には厳格な基準があります。  
  
レビューチームおよびプロセスを監督する他の者に対して研修が提供され、監査監督機関が特定した懸念事項や外部レビュアーと同じくらい厳格である必要性に焦点を当てています。  
  
  
  
（監査QPRからの評価）  
  
一貫した基準が、エンゲージメント評価および加盟事務所の監査業務評価を決定するために使用されます。レビューの対象となる監査エンゲージメントは、「満足」「改善が必要」「不満足」のいずれかで評価されます。  
  
  
  
（報告）  
  
QPRプログラムからの調査結果は、書面によるコミュニケーション、内部研修ツール、定期的なパートナー、マネージャー、およびスタッフ会議を通じて、加盟事務所の専門家に伝達されます。これらの分野は、継続的な改善の程度を測定するために、後続の検査プログラムでも強調されます。  
  
リード監査エンゲージメントパートナーは、それぞれのクロスボーダーエンゲージメントにおいて、「改善が必要」または「不満足」と評価された不十分なエンゲージメントについて通知されます。  
  
さらに、親会社/本社のリード監査エンゲージメントパートナーは、クライアントグループの子会社/関連会社がQPR中に重大な品質問題が特定された加盟事務所によって監査された場合に通知されます。  
  
  
  
リスクコンプライアンスプログラム（RCP）  
  
KPMGインターナショナルは、すべての加盟事務所に適用される品質管理ポリシーおよびプロセスを開発および維持しています。これらのポリシーおよびプロセス、および関連する手順には、ISQC 1の要件が含まれています。  
  
年次RCPでは、品質管理および手順の文書化、関連するコンプライアンステスト、および例外、アクションプラン、および結論の報告からなる堅牢な評価プログラムを実施します。  
  
RCPの目的は、以下の通りです。  
  
KPMG AZSAの品質管理システムが、グローバル品質およびリスク管理ポリシーおよび専門サービスの提供に関連する主要な法的および規制要件との適合性を監視、文書化、および評価すること；  
  
KPMG AZSAが、関連する専門基準および適用される法的および規制要件を遵守しているかどうかを評価するための基盤を提供すること。  
  
不備が特定された場合、適切なアクションプランを策定し、各アクション項目の状況を監視することが求められます。  
  
  
  
グローバルコンプライアンスレビュー（GCR）プログラム  
  
各加盟事務所は、少なくとも3年に1回、KPMGインターナショナルのGCRチームが実施するGCRを受けることになっています。  
  
GCRチームは、KPMG加盟事務所とは独立しており、客観的であり、グローバル品質およびリスク管理ポリシーに精通しています。GCRは、KPMGインターナショナルの選択されたポリシーおよび手順の遵守を評価し、加盟事務所間でベストプラクティスを共有します。  
  
GCRは、以下の独立した評価を提供します。  
  
加盟事務所の品質およびリスク管理への取り組み（トーン・アット・ザ・トップ）と、その全体的な構造、ガバナンス、および資金調達がこの取り組みを支援および強化する程度；  
  
加盟事務所が主要なKPMGポリシーおよび手順を遵守しているかどうか；  
  
加盟事務所が自身のコンプライアンスプログラム（RCP）をどの程度堅牢に実施しているか。

すべてのGCR調査結果に対応するアクションプランを策定し、GCRチームと合意します。アクションプランの進捗は、GCR中央チームによって監視されます。結果は、Global Quality & Risk Management Steering Group（GQ&RMSG）に報告され、必要に応じて適切なKPMG Internationalおよび地域のリーダーシップに報告され、メンバーファームによる迅速な是正措置が確保されます。  
  
ルート原因分析（RCA）  
  
KPMG AZSAは、RCAを実施して監査品質の問題を特定・対処し、それらが再発しないようにし、継続的な改善の一環として良い実践を特定することを目的としています。  
  
メンバーファームの責任は、RCAを実施し、それによって監査品質の問題を特定し、適切な是正計画を策定することです。  
  
KPMG AZSAの監査責任者は、RCAの結果としてのアクションプランの策定と実施、およびソリューションオーナーの特定に責任を持ちます。リスク管理パートナーは、その実施を監視します。  
  
改善のための推奨事項  
  
グローバルレベルでは、GAQSCおよびGQ&RMSGを通じて、KPMG Internationalは品質監視プログラムの結果をレビューし、メンバーファームのルート原因とアクションプランを分析し、必要に応じて追加のグローバルアクションを開発します。  
  
これまでに、KPMG Internationalが開発したグローバルな是正計画は、KPMGネットワーク全体での文化と行動の変革を目指し、KPMGメンバーファーム内での一貫したエンゲージメントチームのパフォーマンスを促進することを目的としています。是正計画は、一貫性を確保し、基本が正しく、ベストプラクティスがKPMGネットワーク全体で共有されるように、グローバルなトレーニング、ツール、ガイダンスの開発を通じて実施されています。  
  
外部からのフィードバックと対話  
  
規制当局  
  
公認会計士・監査審査委員会（CPAAOB）は、規制当局として、JICPAによる品質管理レビューの公平性、中立性、有効性を確認するために監視を行っています。  
  
CPAAOBは、JICPAによる品質管理レビューの報告書をレビュー・検討し、必要に応じてJICPA、監査事務所などの現地検査を実施します。  
  
国際レベルでは、KPMG Internationalは、International Forum of Independent Audit Regulators（IFIAR）と定期的に双方向のコミュニケーションを行い、監査品質の調査結果やネットワークレベルでの問題対処に関するアクションを議論します。  
  
クライアントからのフィードバック  
  
クライアントからのフィードバックを積極的に求め、提供されたサービスに対する満足度を監視します。  
  
このフィードバックを受けて、エンゲージメントレベルおよびファームレベルでのダイナミックな変更を行い、クライアントのニーズに応えるよう努めます。  
  
23  
  
Typ済\_cleanコメント集約版131条通知記載事項\_Complete\_201907w.docx - 2019/08/05  
  
© 2019 . All rights reserved.  
  
© 2019 . All rights reserved.1